



山形南高(山形中・高) 東京同窓会報

第七号
 平成22年10月9日発行
 千代田区平河町2-16-3
 山形県東京事務所内
 山南東京同窓会事務局
 齋藤 常男
 小松 栄三郎
 編集人代表



山形南高 東京同窓会で 大事なものを



山形南高東京同窓会

会長 齋藤 常男

東京地区の同窓会活動は、「むずかしい」とつくづく思います。会員を集め、会費をどうやって徴収するのか、が基本目標であります。そのために、どういう活動が最適なのか、どういう考えのもとに、どういう施策を展開し、活動を進めればよいのかが重要な課題となります。

本会も、衆知を集めて検討しておりますが、会員の満足をどの程度得ているのか分かりません。本会の初代会長の渡辺氏、副会長の森谷氏が強調していたのは、「やるからには、しっかりと東京同窓会をつくらう」ということでした。本会は、ゼ

口から発足し、この精神を受け継ぎ、九年目を迎えました。発足時から本会の活動が軌道に乗るには、最低でも10年位かかるであろう、と予測していましたが、幾多の困難な状況の中で、皆様のご努力で着実に進んできました。失敗もありました。対立もありました。しかし、結束第一でまとまり、前へ前へと進んできました。その根底には、母校愛があったからこそと思っています。

本会を動かすには、確固たる考えと的確な施策が必要だと考えております。本会がこれまでどのような考えで取り組んできたかを要約しますと、次のようになります。

- 1 基本目標「真面目に本格的な活動を行い、信頼される同窓会づくりを行う。」
- 2 役員は、本会の土台づくりと発展のために、奉仕の精神で活動を行う。
- 3 誰でも分かりやすく、正しく活動ができるよう、組織や制度、ルール等を整備し、組織基盤を固める。
- 4 不正や無駄のない会計管理を行う、母校貢献策のため財源の

蓄積に努める。

- 5 役員は、対立より融和で運営を行い、大同団結する。
- 6 活動促進のため、本会の発展に理解を示し、意欲ある人を配置する。
- 7 情報公開を徹底し、情報の共有化を図る。認識の差があまり出ないようにする。
- 8 会長権限を常任幹事に委譲し、担当常任幹事は創意工夫を行い、責任を持って執行する。
- 9 出席率を重視する。全て出席から始まる。「出席なくして発展なし」
- 10 本会の発信力を強め、本会の存在価値を高め、会員の増強に努める。
- 11 本会会員との交流を深め、知り合いを多くし、親しくなるようにする。親睦の重要性を認識する。
- 12 活動に必要なが生じたときは、結束力のある学年に協力を依頼し、執行力を高める。
- 13 会議では、対等の立場で自由闊達に話し合い、よき結論が出るようにする。

七十周年記念行事に ご協力を！



山形南高等学校同窓会

会長 佐藤 充彦

五月四日に開かれた本部同窓会で会長に選任されました。伝統ある同窓会の発展と在校生支援のため取り組んで参りますので、ご協力のほど

時代の変化は、激しいものがあります。会員の意識も変化してきます。今後も活動と運営の基本を踏まえつつ、時代や意識の変化をキャッチして施策を立て、敏活に処理してまいります。効果のないものは、会員の意向に反するものは正していきます。

会員及び未加入の皆さん！ 同窓会を基点に親睦を深め、共に歩み、東京同窓会を発展させようではありませんか。

出合いは、人生希望の第一歩、希望の原点は、山形南高。

我々の心の中で、山形南高は永遠に不滅！

共に希みを高くして、進んでいきましよう！

よろしくお願い致します。

私は南高六回卒業、クラブ活動はバレーボール部に所属しておりました。それだけに「勉学とスポーツの両立の難しさ」を身をもって体験してきました。しかし、現在の在校生諸君は、この難しい課題に挑戦し、校是である「文武両道」を実践し見事に大きな成果を上げています。このような活躍の陰には、厳しさと愛情を持って正面から指導に当たる先生の労苦を忘れてはならないと思います。南高の先生方は、最高の指導者だと私は思っています。

さて、山形南高は来年十月、創立七十周年の記念すべき年を迎えます。日米開戦の年、昭和16年(1941年)南高の前身山形二中が開校、戦渦の中、先輩たちは、モッコを担いでグラウンドを造り、石を運んで石垣を築いて現在の学校の基礎を固めてこられました。

学校、PTA、同窓会の三者によって、七十周年記念実行委員会を組織し、事業内容を協議した結果、グラウンドの拡張整備を中心に記念事業を実施することになりました。現在グラウンドは、野球、ラグビー、サッカー、ハンドボールの4部が使用しており、危険防止の上からも敷地東南部に弓道場、野球ピッチング練習場を移設し、グラウンドの拡張工事を進めることになりました。

在校生を支援することは、同窓生の重要な役割です。学年幹事会に募金額等具体案を提示しますので、同窓会の皆様のご協力をお願い致します。

す。

同窓会には、毎年若い会員が次々と入会して来ます。この若い人たちが参加しやすい環境づくりを進めていく所存です。東京同窓会の発展と会員各位のご健勝を祈念いたします。

卒業生のご面倒を



山形県立山形南高等学校
校長 布川 一元

東京同窓会の諸先輩方には、日頃より物心両面にわたるご支援を賜り心より感謝申し上げます。また、昨年暮れに東京体育館で開催された「バスケットボール・ウインターカップ2009」の折には、多くの皆様から応援を頂き誠にありがとうございました。お陰様で素晴らしい成果を残す事ができました。同大会で活躍した現三年の高橋貴大君は、インターハイ後に全日本のU-18メンバーに選出され、八月は中国で交流試合、九月にはイエメンで開催されたアジア選手権大会へ出場いたしました。その他にも、今夏は多くの部が大活躍してくれました。運動部では、沖縄インターハイにバスケットボール

・バトミントン・陸上・レスリング
・剣道の5部31名が出場し、東北大会には109名が参加しました。そして「夏の甲子園」山形大会、南高は久々のベスト4に輝きました。文化部も、宮崎での全国高校総合文化祭に書道・美術・文芸・新聞・囲碁の5部6名が出場し、また、演劇・吹奏楽・音楽の定期公演も情熱と感動が会場全体に満ち溢れておりました。このように素晴らしい成果を上げている息子達ですが、その会場には必ず多くの先輩方の姿があります。皆様の応援で南高一色の夏を支えて頂きました。心より感謝致しております。

近年は、東京及び関東方面に進学する学生も多く、何かと面倒を見て頂く機会もあろうかと存じますので、宜しくお願い致します。

結びに、山形南高東京同窓会の益々のご隆盛をご祈念申し上げます挨拶と致します。

同期会活動紹介

石の上にも三年、 継続は力ナリ

南高4回卒 鏡 清蔵

昭和23年から東京へ出て来るまで、同じ運動競技を5年間。昭和32年か

ら同じ業界でのビジネス継続53年間。昭和46年から世田谷区に住所変更してから39年間。二九会夏のゴルフ「鬼怒川高原GC」1泊2プレイ19回。二九会中心の観光も兼ねた「ハワイ島合宿ゴルフ会」18回。下手なゴルフを始めて、ホールインワン1回含む27年間。

生来不器用な人間なのか、生まれ時代時代のせいなのか、とにかく「継続は力」「石の上にも三年」と子供の時から親に言われて育った我々は、21世紀の昨今とは大分違う時代を生き抜いてきたものだと思っております。

現在は年金生活(毎日サンデー)の身で、好きな(下手な)ゴルフを趣味として、27年間続けてきました。健康のためのゴルフなのか、ゴルフのための健康なのか分からない。とにかく、いくつになっても、ゴルフに出かける朝は、ワクワク、ソワソワ、子供の遠足前の晩のような気分です。

ゴルフに取りつかれる前は、「あんな動かないボールを叩くのは50歳過ぎてから、と思っていました。今ではもつと若いうちからやっておけばよかったと後悔しています(もつとも、昔は金も、時間もナシ。プレイ費も高かった)。まだまだ、80歳、90歳は先です。エージシユート シングルの腕にはほど遠く、レット スン本、ビデオ等を観ていますが、此の歳になると、体は急速に柔軟性を失って硬くなり、足腰も弱くなつてきます。今最もゴルフに熱中し、上手になりたいと願っている人達の

殆どは、硬い体と鈍い運動神経を持つオジサン達なのです。ではどうすべきか。答えは50代から60代のオジサンだけに適応するレッスン書を探せばよいのでは。シニア代から懸命になってシングル・クラスになった人達の体験を学ぶのがよいのではないかと思います。

いずれにせよ、熟年のオジサンに「肩を十分回せ」とか「トップとフイニツシュを高くせよ」と言っても無理です。「スイングはゆっくり」と言えば言うほど速くなるものです。私などは、ゴルフはハンデのあるスポーツなので、男女、国籍、言葉が違っても、誰とでも楽しく18ホールの時間を過ごせるのはスバラシイものだと感謝しています。

しかし、残念なのは、日本だけの妙なゴルフです。途中での食事、前進3打4打、6インチ、リプレースなどは、すべてコース側の利益のためで、スポーツ性は全く無視されています。世界のルールは、2打目以降を打つ時には「あるがままの状態」のボールを打って行くことなのです。

ゴルフは緑の芝の上で、白球が青空に向かつて飛んで行くのを観ることが最高の楽しみです。雪の時は駄目ですが、雨の中でどうやって距離を出すか、風の状況をどう判断するか、など考える事の多いスポーツです。

ゴルフは、心身ともに健康でないと続けることが出来ません。現代人は、急速に体を動かさなくなっている。

ます。車社会、階段を利用しない、仕事の機械化、家電の普及などのためと云えるでしょう。そのため、糖尿病、高血圧、心臓病、痛風、腰痛などの生活習慣病に冒されています。アメリカでは運動不足病と言うそうです。



ゴルフは、急歩やラジオ体操と同じくらいのカロリーを消費するので、肥満の予防になるのですが、一方多少の頭痛や腹痛でもコンペを断れないことがあります。大きな落とし穴になりかねません。ゴルフの最中に起きる突然死の多さは、ジョギングと同じで、ゴルフはリスクの大きなスポーツでもありません。心臓病、脳溢血は40歳以上の中高齢者に特に多く、プレー前のウォーミングアップ不足、ゴルフ途中での飲酒、喫煙、気候条

件、寝不足、体調不良、全身倦怠、冷や汗、疲労、胸痛、肩コリ、手足のしびれ、などに気を配っていれば、突然死の心配はないはず。お歳と体調に十分注意して、大いに何時までも楽しくゴルフをやりましょう。

「絆を大切に」

「六南会」活動報告

南高6回卒 江口 光夫

高度成長の明るさが見え始めた昭和31年(1956)卒業した六回生は、山形では「六日会」を昭和51年(1976)に立ち上げ、活動を始め、関東地区では、宮崎・大阪・長野・静岡在住者などにも案内し、昭和57年(1982)に懇親会を開催し「六南会」の名称を決定。以来30年近く、懇親会・ゴルフ会・絵画鑑賞等の活動を実施してきた。

昭和58年(1963)、合同で修学旅行を日光・鬼怒川方面、80名の参加で、恩師四名のご参加もあり、結束を高め、昭和60年(1985)には、卒業30周年記念式典を南高記念講堂にて実施。母校へ優勝旗を寄贈した。その間、六日会・六南会の連携を深め、相互に懇親会に出席、合同旅行会・ゴルフ会等を開催、実施した。

平成九年(1997)、六日会・六南会共催で、「還暦記念式典並びに祝う会」を南高記念講堂で開催。恩師・

来賓11名、六回生113名出席し、大応援団旗を寄贈した。その後も白神山地を散策する会・房総半島の旅・那須塩原の旅等を企画実施した。

平成18年(2006)、卒業50周年記念事業として、文翔館で四日間「文化祭」を実施。その道のプロの作品あり、趣味から今を楽しんでいる者が一堂に会し、作品を展示した。卒業50周年記念誌「あの日 あの時」を発刊、上山温泉で古希の祝賀会を開催した。

本年も、五月15日銀座「大松屋」に25名が出席し、平成22年度の総会・懇親会を開催。日本海の魚に、山形のソバを堪能した。六日会から五十嵐会長・山田常任幹事のご出席をいただき、14日の山形南高校同窓会本部会長に、六回生佐藤充彦氏が就任した報告があった。また還暦を記念して母校に贈った大応援団旗の破損がひどく、来年(2011)母校南高70周年記念として寄贈することも、全員の賛成で承認された。

各自近況の報告があり、10名の孫に囲まれた人、大病を克服し元気に出席してくれた人、会社を経営し苦闘している仲間、73歳でなお勤務中の仲間、趣味のコース・絵画活動・プロとして活躍中の画家・書家など、多士済々の仲間が時間のたつのを忘れて楽しんだ。

六日会会報を発刊し始めた五十嵐会長から、六南会も是非参加して欲しいとのご提案があり、六回生の情報交換の場として、三ページ位の、コピーでの会報発刊を検討中である。

ミミの会活動状況

南高8回卒 渡辺 時彦

33年度卒ミミの会は、年一回の1泊旅行と、首都圏での工場見学や名所見物を行っています。

①今年の旅行会は32回目となり、二月初旬に真鶴温泉の民宿で開催しました。

一年ぶりに逢う友や、卒業以来初めて逢う仲間もあつて、心も昂ぶりました。

夕食の宴会は、学生時代の思い出話あり、またカラオケ、小唄も出、会場は大いに盛り上がりました。最後に互いに肩組あつて、南高校歌を歌いました。二次会は部屋に戻って当時を懐かしく語り、又ある人は囲碁に興じました。

翌日は小田原城を見物し、昼食後又来年の再会を約束して解散しました。

②七月下旬、横浜桜木町駅に集合し、「帆船日本丸」と「横浜みなと博物館」を見学(65歳以上は半額300円)。「帆船日本丸」は1930年に建造され、1984年まで54年間航海され、「太平洋の白鳥」と呼ばれた美しい帆船です。「博物館」は、横浜開港150周年事業で、横浜港の歴史が展示されています。館内は涼しく、ゆつくり見学できました。外は35度の猛暑のため、他にも「港が見える丘公園」などの見物を予定していました。省いて中華街を見物後、「景德

鎮」でコース料理を美味しく戴き、本場紹興酒やビールを飲み、ゆつくりと語りあいました。お孫さんと約束したI君は、「中華肉まん」を6個も買ってお帰りにしました。

33年度卒の皆さん、来年も二月に旅行を予定しておりますので、是非初めての方も気軽にお出で下さい。楽しいですよ！

ご参加をお待ちしています。

南天会(10回卒)は今年も前進する！

南高10回卒 倉知 晃一

東京の南天会同窓会(10回卒)は上野にあった宝ホテルにて、少人数で行ったのが始まりである。その後、年に2〜3回程度、10数人の仲間、東京のあちこちで近況報告や山形の情報をもたらず懇親会を重ねて来た。

南天会の本体は、勿論山形にあつて毎年総会を行っており、東京からも出席をしている。最も働き盛りの40から50の年代に第30回(京王プラザホテル)、35回(旅館・朝陽館)、40回(東京プリンスホテル)、の記念総会を東京が中心になり大々的に行つたが、この時代が個人としても東京南天会としてもあらゆる面で最も充実していた時期である。

その後、60歳半ばを過ぎてほとんどの者が仕事から離れ、時間を持て余し、且つ身体はいたって元気とい

う年代に入り、昨年の当誌に平澤一宏君が紹介しているように、「南天会勝手連」と称するプロジェクトXが立ち上がり、2007年から数多くの官公庁、企業・工場、施設の見学会、ハイキング、芋煮会、ゴルフ、忘年会等のイベントを精力的に計画実施して来たところである。

本年は、三月下旬に弘法山のお花見ハイキングを行い、五月には東京山形合同のゴルフ大会を開催した。合同のゴルフ大会は過去にも数回おこなっているが、今回は山形と東京の中間地点の栃木県塩原にある那須チサンカントリークラブにて行つた。初日の懇親会には総勢19名が参加し、50年ぶりに再会した者もあり、ゴルフも懇親会も和気藹々のうちに無事終了した。



「参加して良かった！」という思いを胸に、北と南への帰路に就いた。

人生の最終コーナーを回るに当り、時には家族と共に同窓会の行事に参加し、新しいものを発見して感動したり、ささやかな充実感を感じたりするの悪くはないと思つている。

秋の「山形南高東京同窓会」総会までには、もう一つの素晴らしいイベントが終わつているはずである。南天会は今年も前進する“

28期「鉄人会」

南高28回卒 峯田 淳

何年に卒業して、同期会の名前が何かもわからないままでしたが、昨年、新たな名簿が作成された際、何度か飲んだりしていたI君が連絡してくれて、総会の案内もいただき、恐る恐る出かけてみました。それに数名の同期がいて28期「鉄人会」とようやく認識でき(こういう感覚です)、その後、数回、一緒に飲んだりして、なんとなく色々なことを思い出しています。

要領を得ない話になっていますが、高校を卒業してから、それなりの交流がなかったのだから、こんなものかな。卒業したのは埼玉大学ですが、大学も似ていて、どこにだれがいるかわからないのですが。今は駅やコンビニで売っている夕刊紙「日刊ゲンダイ」に勤務しています。芸能面

などを担当して斬った張った？の毎日を送っていますが、大学の同窓がわずかながら周囲にいたくらいで、学生時代の仲間縁がない生活でした。

ただ、これを機にやれることはやってみようと思っています。有名人大出身者などはよく交流し、横のつながりが結構ある。少しでも皆で連絡しましょう。もう遅いか。

直近は八月五日。S君が幹事。東京・八重洲の居酒屋「八吉」。仕事先の三島から駆けつけたM君はおそらく泥酔状態。M君の勤務先は八重洲で、2軒目は彼の行きつけの八重洲のカラオケパブ。I君はトラブル発生で帰り、茨城から通勤のO君、西東京市議のもう1人のS君と総勢5人。当方は定番の「帰ってきたヨッパライ」とヤクルトのファンなので「東京音頭」の2曲。普段はこれしか歌いません。

M君は「とっておきの芸能ネタはないか」というのが口癖だが、この日、「お土産」はなし。どこにだれがいるかわからないのでウカツにしゃべらないのが無難のようです。社民党のS君とは政治ネタでもっと意見交換を。

趣味はサッカー&仕事も兼ねた競輪。競輪は「週刊大衆」でコラムを連載しています。一読を。



国際化時代を生きる

タンザニア探訪記

パートII

南高9回卒 小原征四朗

悠久の大草原セレンゲッティ国立公園。関東一都三県とほぼ同じ面積。典型的な野生の大国。100万頭を超すヌーの大群、その他200万頭にも及ぶライオンをはじめ、動物たち。象・キリン・シマウマ・バッファロー・サイ・ガゼル。インパラ・イボイノシシたち。

草食動物は平原を分かち合い、ライオン・ヒョウ・チーターやハイエナが彼等を獲物にしています。カバは小さな沼地にひしめき合う。尿・フンを吹き上げる様。

ワニは静かに水辺にひそみ、一瞬のうちに獲物をひきずり込む様。

我々は天井を切除し、サファリ用に改造したランクルに分乗する。欧米からのツアーも多く、道幅4m位の砂利道を、土ぼこりを巻き上げ動物をめざし一路緊張しながらのサファリツアーでした。

とにかく大平原。ベテランドライバーでも、他の車からの情報がなければ、ツアー客を満足させられません。無線が入り、木登りライオンを発見したとの事。一目散に急行、約

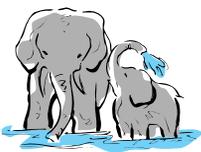
10台程の車が大木の下に息をひそめている。木の上3m位の太い枝にライオンのメス3匹がのんびり休憩中。平地では、ツエツエハエがうるさく、それが嫌で木の上に登るようになってたとの事。

走行中ライオンの一家(メス)に出会うと強行突破はできず、通り過ぎるまで停車。彼女等は日陰が欲しいのか、車の日陰に入り、ゆうゆうと横になってしまふ。あくまでも動物がご主人様なのである。

夕方六時、ホテルに向かう途中、突然シャワー状の雨。そして大平原に巨大な虹が出現。地平線に夕日が沈む。なんと感動的なシーンか。これがアフリカの大地の偉大さだと、"ありがとう"と思わずにはいられませんでした。

マサイ族の生活、人類誕生の地とされるオルドバイ渓谷、世界最大のカルデラ、ンゴロンゴ保護地区。アルーシャ市長を表敬訪問。そして小学校へ。中心都市ドラエスサラームにて、日本大使館と政府高官とのデイナー。

悲しい歴史の島、ザンジバル...その他は次回にと考えております。



海外体験記

クラリンド

パートIII

南高28回卒 奥山 俊一

クラリンドは、アメリカ合衆国のほぼ中央部、アイオワ州の南西部にある小さな田舎町ですが、町はずれに町営のゴルフ場がありました。確かに年間会費として500ドルを払えば、その他費用は一切掛からず、プレーする事が出来ました。

500ドルでさえ、日本では信じられない会費ですが、この会費というのは正確には家族会費を意味し、500ドルで家族みんなが楽しめるシステムなのです。ですから週末は家族でゴルフをするのがアメリカンスタイルです。日本での週末接待ゴルフなど彼らには『アンビリバーブル』な訳です。

サマータイムがあるため、夜の九時頃まで明るく、仕事が終わってからも1ラウンドプレーする事が出来ました。平日の日中は、ピンクやオレンジ色の派手なシャツを着たお年寄りの方々がカートに乗ってプレーをしていました。そのカートは自前のもので、いつもはクラブハウスの前の倉庫を借りて駐車している人もいれば、自宅からそのままカートに乗ってくる人もいました。ゴルフ場の周りには柵などは一切無く、民家がコースに隣接していました。(PGAツアーをご覧の方は、想像が付

くと思います。)
 ゴルフ場はいつもガラガラなので、予約など一切必要ありません。クラブハウスで受付をすれば、好きなところからスタート出来ました。多い時は週に3〜4回位プレーしていましたが、ただほとんど一人でのラウンドだったので、ナイスショットをしても誰も褒めてくれません。やはりゴルフは、みんなでやるスポーツだと思いました。

New York 世界貿易センター

爆破事件(1)

南高15回卒 滝口 成一

もうヒト昔前とは言え、USはNYで起こった爆破テロと言え、航空機を使った「アメリカ同時多発テロ」いわゆる2001年九月に発生した「9・11テロ」であり、マンハッタに聳え立つWTC(世界貿易センタービル・110階建て)へ航空機が突っ込み、漏れたジェット燃料に引火、それが引き金になり、碎けるように崩壊したあの衝撃的な光景が、今でも鮮明に甦るのではないだろうか？
 しかし、ご存知だろうか？その八年前、1993年に同じWTCの地下駐車場二階に置かれた爆弾を積んだ車が爆発した、いわゆる「世界貿易センター爆破事件」を！

私が話したいのは、テロの背景などと、大それた話では無く、この93年二月26日(金)12:17pm(日本時間27日土曜2:17am)に発生した爆破事件に、私自身が遭遇し、巻き込まれ、九死に一生を得た一人としての経験を持つ、「WTC爆破事件」の当時の状況についてである。

当時私は、某外資系コンピュータ・メーカーのSEとして、国内大手某金融機関のシステム設計を担当し、お客様と共にNYへ渡り、最終デザインを詰めていた。

WTCは、ツインタワーで北棟と南棟とに分れ、互いの棟は地下道で結ばれ、中間に「NY-VISTA-HOTEL」が有った。私達はこのHOTELに宿泊し、地下道を通り、連日北棟48階で会議を行っていた。

またWTCビル、WCへは各事務所に置いてある専用の鍵が無ければ用も足せず、またElevatorも、日本のように出入口が同一でなく、一方通行のように入口から入り、そのまま進み、出口となる形であったことに驚いたものだった。

事件は、忘れもしない2/26(金の正午過ぎ、会議中ビル全体が突然二、三度押し上げられるような衝撃と共に大きく縦に揺れ、一瞬直下の地震かとドアを開けたり、窓から外を見渡したが、特に変わった様子もないため、会議を続けていた。

ところが、突然「Hurry up」の叫びと共にドアが開かれ、急いで外へ出るように指示された。兎に角、訳がわからず、何も持たず通路に出

ると、もうそこは白煙に包まれ、逃げ惑う大勢の人々でパニック状態であった。

この時から、ひたすら48階から1階まで、非常階段での先の見えない逃避が始まったのである。降りては止まり、ある人は疲れからか、しゃがみ込んで居る。しばらく止まっては、また降りて、の繰り返し。途中の階でフロアーへのドアを開けても煙が充満しており、ただただひたすら、非常灯が消えたり点いたりする、無味乾燥な薄暗い階段を下るのみであった。

驚いたのは、多くの人種、年齢差も有る集団が、大声を出すことも無く、列を乱すこともなく、慌てずに整然と降りて行き、有る年配の女性は、持っていたバックから、やわら防塵マスクを取り出し、付け始めたのである。用意周到！このパニック状態の中である。生きた心地がしなかつたが、何かしら妙に落ちついた感が私にもあり、やがて酸素ボンベを背負った消防士さんが駆け上ってくるのを見て、助かったと思つた。

1階へたどり着くとフロアーには報道陣が待ち構え、フラッシュの嵐ビルの外へ出ると上空にはヘリコプターが何機も舞い、その轟音に驚き、頑強な背の高い警察官が、拳銃をむき出しにし、警戒している姿が、見慣れない私には恐ろしくもあり、これほど頼もしく思えたことも無かつた。

(紙面の都合上、続きは次回にまた) 以下 事件を報じる新聞



事件の翌日現地で購入した事件を報じるNewYorkTimes紙



日本に帰国後、報道されていた新聞

同窓会報への情熱

会報へのこだわり

南高9回卒 鈴木 隆

まだ七年しか経ってないのか！会報編集を引き受けて途方に暮れた途端の苦しみは、20年も前に思えるの

に。この度、有為な後輩諸君に会報を引継いでもらい、開放された私の実感です。

創刊号から六号まで、先輩・同期・後輩諸兄の温情を受け、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

当初は会報をどうやって作り、どうやって原稿を集めるのか——何も知らない私は乾坤一擲、大先輩達に電話で原稿を強要。収集したのは、少しの原稿と写真のみ。当時のわが同窓会は、暗中模索の砂漠を彷徨う状態。私自身も最果ての荒野に鋏を打ち下ろすような孤独な闘いの気持。それでも、会報を立ち上げねばと。

編集に自信はなかったのですが、昔スーパリーの店長をやっている時に、全国からよりすぐった商社小売業のエリート200名で実体経営理論を猛勉強し、三年間500時間で幸運にもやつとトップで卒業（後にも先にも本気で勉強したのはこの時ぐらい）。その時の自信が、「会報何するものぞ」と思わせた次第。

そんなわけで、素人の私が六号までやらせていただきましたが、母校を愛し、先輩を讃え、後輩を温かく見守り、プライバシーを守りながら、自由奔放に振舞い、節度を保ったつもりです。これは母校の質実剛健に添い、進取の精神を鍛え雑草の生き方にもつながります。勿論、失敗も多発で、六号では今を時めく鳥海山を撮ろうと山形行きの中で二度酒田に行きながら失敗。恥かしながら後悔は海の深さ程。

今は世の中も変わりIT・携帯の時代で、出版方法も変わります。どうか、今後は後輩の編集者に温かい理解を示し、良い会報を作れるように御助力をお願いします。

健康への誘い

毎日歩いています



南高10回卒 清野 正昭

南高を出て50年になります。毎年歳の瀬が近付くと、同窓会等昔の仲間との集まりが増えますが、その席で良く「君は今何をやっているのか」と聞かれます。そんなとき、私は躊躇無く「毎日歩いている」と答えています。

そうなんです。私はどんな日でも、一万歩以上、平均で二万歩ぐらい歩いているのです。

きっかけは10年ほど前、人間ドックで高脂血症と診断され、思い切つて行った某総合病院の先生から、「このままだと、あなたは、間違いなく五年以内に脑梗塞か心筋梗塞で倒れる」と脅かされ、「体重を最低

五キロ落としなさい」と言われたことです。

そのために「一日一万歩以上、一週間で十萬歩以上歩く」との自主目標を決めました。

当時はまだ現役でしたが、実際実行してみると、目標は予想をはるかに上回る厳しいものでした。しかし始めた以上は何とか続けようと、深酒を避け、雨の日は東京駅の地下街をぐるぐる回るなど、いろいろ工夫をして、何とか一月間一日も休まず続けることが出来ました。

一月間続けてみると、当初の目的とは別に、目標をクリアしたという何とも言えない達成感があり、その後は歩くこと自体が生活の最大の目標となりました。

当時の勤務先は東京駅の近くにあり、当初は一駅前の神田駅から歩きましたが、次に秋葉原駅になり、遂には毎日上野駅から往復歩くことになったのです。

体重は三ヶ月を越えた頃から、徐々に減り始め、半年で約5キロ、一年たつた時点では、当初の75キロから65キロとなり、何と10キロの減量に成功しました。その後10年以上この体重を維持しています。

定年後は、早朝一時間半と夕方一時間ぐらい、自宅近くの田舎道を歩くことにしています。ややもすると怠惰に陥りがちな毎日ですが、一日二回のイベントがあることにより、生活にリズムが生まれ、一定の緊張感が保たれています。

最近歩きながら、趣味の俳句の

材料を探し、時にはぶつぶつ独り言を言いながら、句作りを楽しんでいます。

愚作ですが、左記は毎日のウォーキングのなかで作った俳句です。

野仏のよだれかけから漏れる秋
齢積む音せせらぎに山笑う
哀しみは突然柿の花筵
平成の吾も落武者夏の蝶

「訃報」清野正昭氏(常任幹事)は、去る8月12日、ご逝去なさいました。ご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご遺族の皆様へ哀悼の意を表します。ご遺稿となりました本原稿は、7月9日にご寄稿いただいたものです。

健康第一

南高10回卒 原田 陣悦

楯岡から列車で通学して、昭和35年三月に卒業。早いもので50年が過ぎました。思えば、高校時代は写真部に所属していましたが、特に活躍したわけでもなく、平凡な生徒だった感じがします。でも撮影旅行や暗室で語り合った当時の部員が懐かしく思われます。

卒業後は、大学生、会社員として

歩んできましたが、世の為、人の為になる様な事やってきましたかと思うと、首を傾げたくありません。

ところで、今70才を前にして、健康第一と考えて、数年前から太極拳をやっています。そんな関係から、九月に「日中友好太極拳交流」で中国(山西省)に一週間程行く予定です。生来体が硬く、思うようにいきませんが、頑張っています。それから、六月に曹洞宗大本山、永平寺で、一日ですが、修行の真似事をやってきました。最後にありますが、同窓生皆様のご健康とご多幸を祈念します。

人生思い思い

古希過ぎぎて

南高6回卒 加藤 芳男

60歳で定年を迎えた時、まだまだこの気構えがありました。70歳ともなると、意識では若いと思っけていても、からだの衰えは如何ともしがたいものです。

精神の活性化は可能でも、肉体の活性化は不可能です。とどのつまりは単純素朴に生きていけばいいのだと。

ふるさとを同じにする同期会、同窓会は、自分の存在感が薄れていくという不安のなかで、他人とのコミ

ユニケーションをとって、自分の存在を確認したいという強い欲求の表れではないでしょうか。

人並みに生きて老後の風さにいる退屈は、人生の敵なのではないでしょうか。忙し過ぎて疲れちゃいますけど、退屈は大変です。もつと気楽に、積極的に参加しようではありませんか。

五十年過ぎて忘れぬ歌がある

孫達の論語

南高4回卒 飯島 寛

近所に住む娘夫婦の子供達を、我家に時々預かる機会が増えてきた。小学校六年の男の子と、三年の女の子である。最近の世相を見るにつ

け、思うところあって論語の教育を思い立った。もともと論語や漢文が好きだった為、こちら側には余り問題は無かったが、子供達にとっては寝耳に水で、何それ?とか無理無理とか大混乱。

そんな事は先刻承知で騒ぎは一切無視、正座をさせて、準備しておいた子供と学ぶ論語百章や関連雑誌で論語の何たるかを簡単に説明し、読む時の姿勢、本の位置、発声等を教え、早速素読に入った。

先ず読んで聞かせ、同じ文章を私が納得するまで、何回も何回も繰り返

返し反復練習して約一時間、子供達も私もグロッキーで、何とか初日は終了。その後も我家にくる度に寺子屋教育。あの日から早や四ヶ月、子供達の順応性と記憶力にはホトホト感心。今ではすっかり慣れて、論語の勉強と云うと二階の静かな部屋がご希望で、子曰く、と読み始めると、姿勢と発声が将に論語調になって来るからすごい。

孔子の生きた三千年前の春秋時代に思いを馳せ、論語の素読によって、乱れがちな日本人の基盤としての国語力を少しでも身に付けてくれれば有難いと願っている。

学而第一に曰く。子曰く、学びて時に之を習う、亦説ばしからずや、と(千葉在住。2004年 中堅化学会社退職。)

バトンタッチ

山形南高校

東京同窓会の

一員として

山形県東京事務所

南高32回卒 石山 清和

この四月から山形県東京事務所勤務となりました石山清和と申します。東京暮らしは、学生時代に四年間過ごして以来なので、約25年ぶりとなります。この間、山形暮らしがすっかり染みついてしまい、ほぼ半年を

経過した今も東京暮らしに不安を抱えている毎日です。やはり、学生時代とは全く行動範囲も意識も違いますから、仕方がないとは思いますが、新しい土地での生活として割り切り、早く都会暮らしにとけ込んでいきたいと思っけています。今日この頃です。

そんな中で、山形南高校東京同窓会という存在は、非常に心強いものであります。同じ高校で学んだもの同士の絆を大事にすることで、東京暮らしの不安も和らぎますし、またがんばる気持ちにもなります。

今後は、山形南高校東京同窓会に若い世代の参加がたくさん増えていくような取り組みが大事なのかなと思っけていますし、是非機会をとらえて若い仲間への声かけを進めていきたいと思っけています。

ホームページのご案内

平成20年2月に正式公開

Google 検索語

URL:<http://www.geocities.jp/yamanankou/>

HPを開くと校歌(ハーモニカ)が流れます。

HPの主担当者：滝口成一氏(南高15回卒)

総会特集

平成21年度の第八回総会は、平成21年10月3日(土)午後二時より東京五反田の「ゆうほうと」で盛大に開かれ、106名が参加しました。

第一部では、山形県副知事の高橋節氏(南高18回卒)が「これからの山形県政」と題して講演してくださいました。

「講演の要旨」

山形県の人口は、毎年約九千人というスピードで減少しています。一つの村がなくなっている勘定です。そのような中で、女性知事が頑張っています。

山形県は農業県です。農業の振興に力を入れ、食の安全を守る施策を推進しています。農業だけではありません。総産業化を目指し、多くの産業を育てます。

企業誘致にも積極的に取り組んでいます。また、「人づくり」に邁進して行きます。全国の最先端を行く少人数学級への取組を更に加速していきます。

子育て支援にも力を入れます。そのため知事直轄の組織を作りました。自動車産業の振興にも取り組むとともに、医療の充実を図ります。

県政のために頑張ります。どうぞご支援下さい。

(文責：小松栄三郎)



第二部では総会が開かれ、粛々と議事が進められました。総会の前に引退されることになった副会長の椿 尋昭氏(南高1回卒)に斎藤会長から永年のご功績に謝辞が述べられました。



◎役員一同です。
よろしくお願い致します。

7	その他
6	顧問選出の件
5	規定制定(案)
4	平成21年度収支予算(案)
3	平成21年度活動方針(案)
2	平成20年度収支決算報告 並びに監査報告
1	平成20年度活動報告

議 事



第3部
懇親会

南高魂は不滅





懐かしさに
時間を忘れ



われらの絆、固し!





来年も会いましょう！

平成21年度物故者

平成21年8月30日以降
22年8月20日判明分まで

(旧職員)

平成21・3 福田 法三 先生 数学

(S17・9・23・3)

平成21・9・29 後藤 孝夫 先生 物理

(S38・4・47・3)

平成22・5・12 板井 角也 校長 社会

二中1 校長 (S60・4・62・3)

教諭 (S24・3・30・8)

(同窓会員)

二中1 回卒 板井 角也 平成22・5・12

第五代同窓会長

二中4 回卒 市川 達郎 平成21・5・31

(4年修了者)

二中4 回卒 大竹 達彦 平成21・7・3

二中4 回卒 青山 誠一 平成22・4・4

二中4 回卒 松田 匡弘 平成22・4・24

二高2 回卒 大沼 浩 平成21・12・23

南高1 回卒 森田 建二 平成21・8・14

南高1 回卒 西塔 恒雄 平成21・9

南高1 回卒 伊藤 吉彦 平成22・1・7

南高1 回卒 武田 吉美 二高2 (校友)

南高1 回卒 山川 浩一 平成22・5・15

南高2 回卒 大城 進 平成21・6

南高2 回卒 会田 俊雄 平成21・10・29

南高2 回卒 寺尾 庄八 平成21・11・27

南高2 回卒 田中 耕二 平成21・12・15

南高2 回卒 畔柳 昌美 (校友)

南高2 回卒 畔柳 昌美 平成22・1・31

(校友)

南高2 回卒 東海林恒之 平成22・6・22

南高3 回卒 田中 榮一 平成21・11・26

南高4 回卒 佐久間章夫 平成21・8・26

南高4 回卒 山本 久夫 平成21・9・11

南高6 回卒 阿部 敏 平成21・6・30

南高6 回卒 渋谷 広 平成21・10・14

南高6 回卒 横山 一郎 平成21・10・25

南高7 回卒 奥山 正勝 平成22・2・6

南高7 回卒 戸村 亮聖 平成22・3・2

南高7 回卒 小河源 治 平成22・4・27

南高8 回卒 丹野 文司 平成20

南高8 回卒 設楽 昭栄 平成21

南高8 回卒 佐藤貴太郎 平成21・5・21

南高8 回卒 佐藤 一雄 平成21

南高8 回卒 佐藤 武治 平成21・12・21

南高8 回卒 村上 光汪 平成21・12・21

南高8 回卒 今野 将 平成22・8・24

南高9 回卒 佐藤 恵子 平成20・2・5

南高9 回卒 深瀬 教夫 平成22・1・1

南高9 回卒 鈴木 紀重 平成22・4・11

南高10 回卒 松沢 善昭 平成20・5

南高10 回卒 清野 正昭 平成22・8・12

南高11 回卒 内海 壮治 平成22・6・15

南高12 回卒 鈴木 昭吉 平成21・10・16

南高12 回卒 松田 彰 平成22・2・15

南高12 回卒 設楽 秀男 平成22・6・21

南高14 回卒 前田 耕治 平成22・8・29

南高16 回卒 五十嵐俊秀 平成21・10・5

南高16 回卒 平吹 雅彦 平成22・5・21

南高17 回卒 小笠原健雄 平成22・6・9

南高23 回卒 佐藤 幸晴 平成22・4・3

南高24 回卒 伊藤 敬一 平成21・6

南高26 回卒 福島 茂良 平成22・2・25

南高26 回卒 佐々木 仁 平成22・5・11

南高27 回卒 尾関 良二 平成21・4・7

南高27 回卒 原田 茂 平成22・5・11

南高29 回卒 大澤 祐次 平成22・1・3

22年度 母校の運動部、文化部の活躍

運動部

優勝

バスケットボール

バドミントン

(個人・団体・ダブルス)

剣道(個人)

レスリング(55kg級)

陸上競技

(400mリレー・東北6位、

100m東北2位、200m東北優勝。

10年ぶりインターハイ出場)

準優勝

ラグビー

レスリング(個人74kg級・96kg級)

3位

バレーボール

柔道(団体、個人73kg級)

ソフトテニス

レスリング

(団体、個人55kg級、60kg級)

ボクシング

(団体、個人ピン級・フライ級・

バンナム級・ライト級)

ベスト4

野球(2回戦 10・0 真室川高

3回戦 1・0 山形東高

4回戦 5・1 北村山高

準決勝 1・8 山形中央高)

ベスト8

剣道(団体)・ハンドボール・硬式

テニス・ボクシング(個人ライトW)

・ソフトテニス(個人)

文化部

◆全国高等学校総合文化祭出場

(書道・囲碁・文芸・新聞・美術)

◆音楽部(定期ライブ350名)

◆吹奏楽部(第51回定演140名)

◆映画演劇研究部(定期公演180名)

母校の進学状況

(21年度末)

◎国公立大学 145名

(内訳)

東北大学 12名

山形大学 55名

新潟大学 14名

埼玉大学 10名

◎私立大学(合格者延べ人数236名)

(内訳)

早稲田大学 2名

東京理科大学 13名

明治大学 12名

中央大学 7名

過年度(昨春)卒業生

◎国公立大学 18名

(内訳)

東北大学 4名

山形大学医学科 3名

◎私立大学 62名

会長 奥山 正博 (二中4回卒)

第9回ゴルフ大会の御案内

今年地球温暖化の影響が異常気象で暦の上では処暑も過ぎたのに、毎日厳しい残暑が続いておりますが、皆様にはお変わりなくご健勝のこととお慶び申し上げます。さて毎年恒例の親睦ゴルフ・秋の大会を下記の通り開催いたします。

一人でも多くの皆さんと語りながら楽しい親睦の輪を広げて参りたいと思っております。皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

記

- 1、日時 22年10月22日(金)
午前9時 現地集合
- 2、場所 かすみがうら
OGMゴルフクラブ
茨城県かすみがうら市
〒300-0202 田状5136
☎029-896-0811
- 3、コース 南・中コース
9時31分より
5組乗用カートセルフ
新ペリア方式
- 4、競技方法 7、800円
- 5、費用 (プレー代・昼食代)
・昼食時1ドリンク



サービス

- ・ボール2個プレゼント
- ・尚70歳以上の方は利用税免除 (要年齢証明)

会費 2,000円

(賞品、パーティ代)

6、交通 常磐自動車道

土浦北インターより19km(約25分)

7、出欠

9月30日迄ですが、事務局へお問合せ下さい。

事務局 連絡先

- ・二中4回卒 奥山 正博
TEL 03-5430-2353
FAX 03-3413-7765
- ・山南4回卒 鏡 清蔵
TEL 090-3402-7765
FAX 03-3439-1211
- ・山南6回卒 高橋 亨
TEL 048-863-6486
FAX 048-863-6486
- ・山南9回卒 高橋 英也
TEL 090-7816-7886
FAX 03-5412-8282

編集後記

本会報は、第一号から第六号まで鈴木隆氏(南高9回卒)が編集を担当してくださいました。渾身の力を込めて編集された各号の出来映えは、極致を極めたものと誰もが認めるところです。この度、都合で担当を辞され、私たちにお鉢が回ってきて、大あわてでした。

★私たちは集団で編集しようと決めました。退職組と現役組の混成チームです。役員会後の編集会議以外には、メールでやり取りをすることになりました。原稿も出来るだけメールで寄せていただくことにしました。驚いたことにほぼ100%、メールで寄稿していただきました。

★常任幹事の清野正昭氏(南高10回卒)が八月12日に急逝されたことに驚きました。七月九日にメールで寄稿していただいていた。しかも歩く健康法について書かれていただけに、大きな衝撃を受けました。ご冥福をお祈り致します。

★昨年の総会の写真を4頁に渡って掲載しました。同期の皆さんが次から次へとステージに上がり、団結している姿を撮影しましたので、会員の皆様にご紹介します。写真がこの同窓会の素晴らしさ(本質)を正直に伝えてくれています。

★今回の会報の原稿募集については、五月13日(木)の役員会(都道

府県会館・写真)と六月28日(月)の同窓会会員の夏季懇親会(銀座うおや一丁・写真)でアピールさせていただきました。皆様の御協力に心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

編集者代表

小松栄三郎(南高15回卒)

編集委員

- 小松栄三郎 (南高15回卒)
- 滝口 成一 (南高15回卒)
- 村岡 登 (南高25回卒)
- 鈴木 淳一 (南高25回卒)
- 相馬 和弘 (南高28回卒)
- 杉本 俊夫 (南高28回卒)
- 我孫子雅敏 (南高29回卒)

